

臨時レポート

日銀 金融政策の現状維持を決定

3月の金融政策決定会合について

- 日銀は3月15日～16日の金融政策決定会合で事前の大方の予想通り、金融政策の現状維持を決定。
- 当面は日本の金利に影響を与える欧州政治状況や米F R B（米連邦準備制度理事会）の金利引き上げペースの動向等に注意。
- 海外主導で金利上昇圧力が強まる場合には、国債買い入れ額の増加や指値オペを通じて目標金利（10年国債利回り0%程度）の維持を図るものと思われる。

日銀は3月15日～16日の金融政策決定会合で景気判断を「緩やかな回復基調を続けている」のまま据え置くとともに、事前の大方の予想通り金融政策の現状維持を決定しました。

年明け以降、海外主導で金利上昇圧力が強まる局面が見られましたが、日銀は国債の無制限購入に踏み切るなど積極的に金利上昇を抑制してきました。3月の国債購入方針では過度な金利変動を抑える狙いで、初めて国債購入実施日を公表し、購入の回数やタイミングの透明性を高めています。日銀のこうした姿勢は国内金利の安定をもたらすものと思われる。

国内金融・為替市場の視点は、当面は、海外動向に向けられそうです。尚、3月15日は米連邦公開市場委員会（F O M C）、オランダ下院選挙が行われましたが、いずれも市場を混乱させるものではありませんでした。

<米F O M C>

市場の予想通りFF（フェデラルファンド）金利の誘導目標レンジが0.25%引き上げられた。2016年12月以来3ヵ月ぶりの利上げ

- ・今年及び来年の利上げ回数予想は前回と変わらず
- ・経済・物価見通しも小幅な上方修正に留まった

こと等から、懸念されていた利上げペースの加速懸念は低下。

<オランダ下院選挙>

反欧州連合（E U）を唱えていた極右・自由党（P V V）を抑え、与党・自由民主党（V V D）が第1党を維持。

自由党の勝利により反欧州連合の動きが強まる懸念は減少。

4月～5月にはフランス大統領選挙が予定されるなど、引き続き海外動向には注意が必要ですが、黒田総裁の記者会見等からは、当面、現状の緩和スタンスを維持する姿勢がうかがえます。

図表：日・米・欧の金融政策決定会合スケジュール

(2017年4月～6月)

予定日		日本	海外
4月	27日	日銀金融政策決定会合（26日～）	欧州中央銀行（E C B）金融政策委員会
5月	3日	-	米国 F O M C（2日～）
	8日	-	E C B金融政策委員会
6月	14日	-	米国 F O M C（13日～）
	16日	日銀金融政策決定会合（15日～）	-

(出所) 各種資料を基にニッセイアセットマネジメント作成

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント